

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 4 4 年 度

(1970年3月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 4 4 年 度

(1970年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員及準職員

所 長 教 授 辻 周 介

(内科学第一部門)

主任教授：内藤益一，助教授：前川暢夫，助手：津久間俊次・中西通泰・川合 満・池田宣昭・中井 準，講師(非常勤)：大井 豊・吉田敏郎，技能補佐員：赤田博子

(内科学第二部門)

教授：辻 周介，助教授：大島駿作，講師：小原幸信，助手：福間謙助・泉 孝英・森岡茂治・木野稔也，講師(非常勤)：日置辰一郎・太田 鋤・阿部光幸，技能補佐員：今村祐子

(胸部外科学部門)

主任教授：長石忠三，助教授：寺松 孝，講師：佐川弥之助，助手：池田貞雄・人見滋樹・船津武志・甲斐隆義，講師(非常勤)：日下芳郎・中村 健・吉田 昇・加藤幹夫・山下政行・安淵義男・久野健志・大道重夫

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：高橋権也・森川 茂，講師(非常勤)：家森武夫・服部正次，技能補佐員：保本保子

(細菌血清学部門)

主任教授：上坂一郎，助教授：大岩弘治，助手：竹尾漢治・桂 義元，講師(非常勤)：村上春彦・大平 実，技能補佐員：白田通子

(細胞化学部門)

主任教授：高松英雄，講師：大川欣一，助手：金村秦輔・平井圭一，講師(非常勤)：峰下鎮雄・浜島義博

(併 任)

教授 福田 正 (京都大学医学部放射線医学教室)

教授 西尾 雅七 (京都大学医学部公衆衛生学教室)

(事務部)

事務長：石津 豊，事務長補佐：北川治康，庶務掛長：三好弥博，同主任：秋吉駿一，同事務官：近藤英子・堀

田良恵・木村ちゑ子・室谷弘美, 同技官: 田中 稔・川原田和夫, 事務補佐員: 諏訪多香子, 経理掛長: 松本 正, 同主任: 森田彰彦, 同事務官: 前田久男・上地稔子・坂上輝雄・中井恒博・崎山 保, 事務補佐員: 二谷 都, 収入掛長: 藤原守二, 同主任: 中村睦太郎, 同事務官: 松本キヌ・野田芳子・児玉登美枝・佐竹セツ・竹内照夫・奥村茂和, 事務補佐員: 尾家孝子, 患者掛長: 鴨脚道哉, 同事務官: 野元頼子・室恵美子・岡野福子, 事務補佐員: 和田日出子・西村多加子・井川明子, 管理掛長: 渡辺義一, 同事務官: 城 為章, 同技官: 進士 悟・西川景曠・松浦 康・小西喜一郎, 同技能員: 岩井昭一, 用務員: 内木カネ子・橋本敏子・水原貞子・高安忠一, 臨時用務員: 渡辺光子

(動物飼育室)

技官: 門田一美・飛田 勇・安岡倉一, 技能員: 大字雪雄, 臨時用務員: 近藤照子

(附属病院)

病院長(兼): 教授: 長石 忠三

(第一内科診療科)

科 長(兼): 教授: 内藤 益一
外来医長(兼): 助教授: 前川 暢夫
病棟医長(兼): 助教授: 前川 暢夫

(第二内科診療科)

科 長(兼): 教授: 辻 周介
外来医長(兼): 助教授: 大島 駿作
病棟医長(兼): 講 師: 小原 幸信

(外科診療科)

科 長(兼): 教授: 長石 忠三
外来医長(兼): 助教授: 寺松 孝
病棟医長(兼): 講 師: 佐川弥之助

(検査部)

検査部主任(兼): 助教授: 前川暢夫, 技官: 大槻 実・山岸悦子・木津 啓・山田愼一・平井 要・小野木照子・山田孝子・小原保代・本間トキエ・増田 稔・西尾貞子・吉村一枝・八木 収・永島邦雄・木村邦子・小林すま子, 技能員: 和田ひな, 技能補佐員: 渡辺晴美・竹内道子, 用務員: 清水一枝

(放射線部)

放射線部主任(兼): 助教授: 大島駿作, 技師長: 浜川純一, 撮影主任: 蔵岡信良, 技官: 大坂泰夫・曾我部康之・灘井智代子

(薬剤部)

薬剤部長: 桑田 宏, 薬剤主任: 沢岡平和, 薬剤師: 在田寿子・金森昌子・楠亀淳子, 事務官: 宇野初枝・馬田保子

(看護部)

総婦長: 細川ミツエ, 看護婦長: 中根文子・大前久野, 副看護婦長: 松田比佐子・北村トシ子・小林とよ, 看護婦: 古府静江・岩永千代子・高市政子・安部克子・近藤信子・松本敏枝・山崎保子・田中松代子・小林梅野・谷村明子・齊藤千鶴子・山田さだ子・松宮なお子・松田富子・明石和子・松本喜美子・丸井早苗・井藤泰子・曾我部京子・稲垣美智子・中山美智恵・弘岡満里子・小林富貴子・西村文子・森下政析・市田 崇・山田直美・松田初枝・中野茂代・三浦美智子・清水添子・北川富子, 看護助手: 中川 近・高田よしゑ・広川一枝・能井美千代・広瀬百合子・森 朝子

業 績 目 録

内 科 学 第 一 (主任 教授 内 藤 益 一)

〔学 会 発 表〕

- 1) 内藤益一, 津久間俊次他: 1-Methyl-3-alkyl or aryl-2-thiourea, 1-Propyl-3-alkyl or aryl-2-thiourea 系化合物の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 日本薬学会総会 (昭44.4)
- 2) 内藤益一, 津久間俊次他: 1-Hexyl-3-alkyl or aryl-2-thiourea, 1-phenyl-3-alkyl or aryl-2-thiourea 系化合物の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 日本薬学会総会 (昭44.4)
- 3) 内藤益一, 津久間俊次他: 1-(3-Bromo-4-ethoxy phenyl)-3-alkyl or aryl-2-thiourea 系化合物の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 日本薬学会総会 (昭44.4)
- 4) 内藤益一: シンポジウムⅢ “結核化学療法強化の可能性とその限界” 「座長」, 第44回日本結核病学会総会 (昭44.7)
- 5) 前川暢夫: 臨床成績を中心に, シンポジウムⅢ “結核化学療法強化の可能性とその限界”, 第44回日本結核病学会総会 (昭44.7)
- 6) 中西通泰: 病巣内結核菌の細菌学的研究, シンポジウムⅢ “結核化学療法強化の可能性とその限界” 「特別発言」, 第44回日本結核病学会総会 (昭44.7)
- 7) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 蒲田迪子: Evaluation of secondary antituberculous agents, 第1回アジア太平洋胸部疾患学会 (APCDC) (昭44.7)
- 8) 内藤益一, 前川暢夫: 肺結核二次化学療法の強化, 日本結核化学療法研究会 (昭44.7)
- 9) 内藤益一, 前川暢夫: 肺結核初回化学療法の強化, 日本結核化学療法研究会 (昭44.7)
- 10) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次, 中西通泰: Studies on a new antituberculous antibiotic rifamycin AMP, 第6回国際化学療法学会 (昭44.8)
- 11) 前川暢夫, 中西通泰, 池田宣昭, 川合 満, 久世文幸, 武田貞夫他: 肺癌に対するブレオマイシンの使用経験, 第10回日本肺癌学会総会 (昭44.10)
- 12) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次: 肺結核初回化学療法の諸術式とX線像の経過ならびに副作用, 日本結核化学療法研究会 (昭44.12)
- 13) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次: 肺結核初回化学療法に於ける SM ならびに PAS のアレルギーの吟味, 日本結核化学療法研究会 (昭44.12)
- 14) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次: 初回耐性率の年次的変遷についての疑問, 日本結核化学療法研究会 (昭44.12)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 前川暢夫: 肺結核再治療における強化化学療法術式の効果, 結核, 43: 523-525 (昭43.12)
- 2) 内藤益一, 津久間俊次, 蒲田迪子, 太田令子他: 結核菌に対する化学療法剤の研究 (第22報) N²-(2-Pyridyl)-3-p-ethoxy phenyl-pseudothiohydantoin および N²-(2-Benzothiazolyl)-3-allyl pseudothiohydantoin 誘導体の合成ならびに抗菌作用について, 薬学雑誌, 89: 1099-1103 (1969)
- 3) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: 結核菌に対する化学療法剤の研究 (第23報) 3-Methoxy-4-phenoxy benzaldehyde および 3-Hydroxy-4-phenoxybenzaldehyde 誘導体の合成ならびに抗結核菌作用について, 薬学雑誌, 89: 1119-1124 (1969)
- 4) 太田令子: 数種の二次抗結核剤の毎日投与法と間歇投与法との効果比較に関する試験管内実験, 京大胸部研紀要, 2: 198-207 (昭44.3)

- 5) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: 結核菌に対する化学療法剤の研究(第24報) 3-Methoxy-4-(3-methoxy phenoxy) benzaldehyde および Methoxy-4-(4-methoxy phenoxy) benzaldehyde 誘導体の合成ならびに抗結核菌作用について, 薬学雑誌, 89: 1266-1271 (1969)
- 6) 津久間俊次, 山田栄一, 岩田猛邦, 内藤益一: Rifamycin AMP について, 日本胸部臨床, 28: 380-389 (昭44.5)
- 7) 前川暢夫, 中西通泰, 太田令子他: 珪肺症を合併した肺胞蛋白症の一例, 日本胸部臨床, 28: 752-761 (昭44.10)
- 8) 内藤益一: 第44回日本結核病学会総会シンポジウムⅢ “結核化学療法強化の可能性とその限界”, 結核, 44: 377 (昭44.11)
- 9) 前川暢夫: 同上 臨床成績を中心に, 結核, 44: 389-391 (昭44.11)
- 10) 中西通泰: 同上 病巣内結核菌の細菌学的研究, 結核, 44: 392-393 (昭44.11)

内 科 学 第 2 (主任 教授 辻 周 介)

〔学 会 発 表〕

- 1) 泉 孝英, 森岡茂治, 木野稔也, 辻 周介: サルコイドーシスにおける Anti γ -globulin Factor について, 第1回臨床免疫研究会総会(昭44.2.16)
- 2) 泉 孝英: BCG 免疫の成立と持続, 第4回日米医学協力計画結核専門委員会日本部会(昭44.2.17)
- 3) 辻 周介: サルコイドーシスの免疫学的考察(特に結核症との関連性), 同上(同上)
- 4) 辻 周介, 大島駿作, 小原幸信, 日置辰一郎, 宮城征四郎, 森岡茂治, 浜本康平, 尾原潔司, 木野稔也, 佐藤篤彦: 呼吸困難を伴う慢性疾患にかんする臨床的研究(第2報) 分類にかんする検討の続報, 第66回日本内科学会総会(昭44.4.1)
- 5) 泉 孝英, 辻 周介: 生下時に投与されたプレドニゾロンのモルモットの結核感作に対する効果, 第22回実験結核研究会総会(昭44.6.29)
- 6) 泉 孝英: 結核管理における健康診断と患者管理の現状, 第9回産業健康管理研究全国会議(44.6.29)
- 7) 木野稔也, 泉 孝英, 辻 周介: 活動性肺結核患者における Middlebrook-Dubos 反応及び免疫グロブリンの検討, 第44回日本結核病学会総会(昭44.6.30)
- 8) 泉 孝英: サルコイドーシスについて, 3. 免疫学的立場から, 第44回日本結核病学会総会シンポジウム(昭44.7.1)
- 9) 水谷 昭, 大島駿作, 小原幸信: 結核感作家免肺滲出細胞に関する組織学的研究, 第44回日本結核病学会総会(同上)
- 10) 辻 周介, 泉 孝英, 森岡茂治, 木野稔也: サルコイドーシスの免疫学的研究, 第2報 臨床経過とツベルクリン反応の変動, 第9回日本胸部疾患学会総会(昭44.7.3)
- 11) 辻 周介, 日置辰一郎, 泉 孝英: 慢性閉塞性肺疾患群の血清蛋白分画と免疫グロブリン分画, 同上(同上)
- 12) 中島道朗, 藤原清則, 日置辰一郎: 最近の自発性気胸自験例の検討, 同上(昭44.7.4)
- 13) Izumi, T. and Tsuji, S.: Immunological study on sarcoidosis in comparison with tuberculosis, First Asia Pacific Congress on Disease of the Chest (Kyoto) (1969. 7. 3)
- 14) 日置辰一郎, 有馬弘毅, 小原幸信: 径5cmの肺門部扁平上皮癌で切除後10年余生存の1例, 第14回肺癌学会関西支部会(昭44.8.30)
- 15) Izumi, T., Costello, R. and Dubos, R.: Antitubercular Immunity in Mice, Fourth Annual Tuberculosis Conference U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program (Washington D.C.U.S.A.) (1969. 9. 8)
- 16) 泉 孝英, 辻 周介: Immune Deviation に関する研究(第3報) モルモットにおけるツベルクリンアレルギーの抑制, 第19回日本アレルギー学会総会(昭44.11.12)

- 17) 木野稔也, 小原幸信, 辻 周介: 最近経験した肺胞微石症の4例, 第35回日本結核病学会, 第5回日本胸部疾患学会近畿地方会(昭44.12.3)
- 18) 泉 孝英, 森岡茂治, 木野稔也, 辻 周介: サルコイドーシスの臨床診断——自験130例を中心として——, 同上(同上)
- 19) 小原幸信, 泉 孝英, 辻 周介, 甲斐隆義: 肺胞蛋白症の一例(第一報), 第70回日本内科学会近畿地方会(昭44.12.13)
- 20) 日置辰一郎: 慢性閉塞性肺疾患の増悪・進展の臨床的検討, 昭和44年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会(昭45.1.24)
- 21) 泉 孝英: サルコイドーシスの臨床, 同上(同上)
- 22) 泉 孝英: サルコイドーシス症の呼吸器科における臨床, 北野病院集談会(昭45.2.7)
- 23) 泉 孝英, 小原幸信, 森岡茂治, 木野稔也, 辻 周介: サルコイドーシス症における Kveim 反応とツベルクリンアレルギーの関連性, 日本臨床免疫研究会第2回例会(昭45.3.6)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 辻 周介: 遅延型アレルギーと抗体産生, 代謝, 6: 25, 1969.
- 2) 泉 孝英: SLE と遅延型アレルギー, 医学のあゆみ, 68: 260, 1969.
- 3) 泉 孝英, 森岡茂治, 木野稔也: サルコイドーシス症における Kveim 反応とツベルクリンアレルギーの関連性, 日本胸部臨床, 28: 458, 1969.
- 4) 泉 孝英: 遅延型アレルギーの血清による受身伝達, 医学のあゆみ, 70: 15, 1969.
- 5) 泉 孝英: 原発性胆汁性肝硬変症における遅延型反応性, 医学のあゆみ, 70: 159, 1969.
- 6) 辻 周介: ザルコイドーシスについて, Medical Corner, 11: 9, 1969.

胸 部 外 科 学 部 (主任 教授 長 石 忠 三)

〔特別講演, 招請講演, シンポジウム, パネルディスカッション等〕

- 1) 岡田慶夫: スライドカンファレンス「肺」司会, 第10回日本臨床細胞学会総会(昭44.6)
- 2) 佐川弥之助: 肺循環系に及ぼすアノキシアの影響, 第9回日本胸部疾患学会総会シンポジウム「肺循環のメカニズム」(昭44.7)
- 3) 岡田慶夫: 健常肺を中心として, 第9回日本胸部疾患学会総会シンポジウム「気管支肺胞系末梢部の超微形態」(昭44.7)
- 4) Teramatsu, T.: Surgical Treatment of Pulmonary Tuberculosis, Moderator, Fireside Conference at the APCDC (昭44.7)
- 5) 岡田慶夫: どんな肺癌が治ったか, 第14回肺癌学会関西支部会シンポジウム司会(昭44.8)
- 6) 池田貞雄: 外科の立場から, 第14回肺癌学会関西支部会シンポジウム「どんな肺癌が治ったか」(昭44.8)
- 7) 寺松 孝: 我々の提唱した「肺結核に対する刺戟療法と化学療法との併用療法」のその後と将来の問題点, 第21回日本結核病学会および第4回日本胸部疾患学会合同九州地方会総合招請講演(昭44.9)
- 8) 長石忠三: 昭和44年度日本医師会医学講演, 肺癌に関する最近の知見(昭44.9)
- 9) 長石忠三: 肺癌における宿主抵抗性の諸問題, 第10回日本肺癌学会依頼シンポジウム司会(昭44.10)
- 10) 岡田慶夫: 肺癌抗原の解析, 第10回日本肺癌学会依頼シンポジウム「肺癌における宿主抵抗性の諸問題」(昭44.10)
- 11) 長石忠三: 東大石橋教授教育講座「臓器移植と免疫」座長発言, 第22回日本胸部外科学会総会(昭44.12)
- 12) 寺松 孝: 外科治療の限界(形態学的面から), 第22回日本胸部外科学会総会シンポジウム「難治性肺結核の治療」(昭44.12)

- 13) 岡田慶夫：免疫学的方面からみて，第22回日本胸部外科学会総会 シンポジウム「肺癌の早期診断とその治療成績」(昭44.12)
- 14) 長石忠三：肺気腫研究会10周年記念講演「肺泡孔と肺気腫」第18回肺気腫研究会(昭45.1)
- 15) 寺松 孝：肺癌外科における問題点，第7回胸部外科研究会ラウンドテーブルコンファレンス司会(昭45.2)

〔一般講演〕

- 1) 長石忠三，岡田慶夫：肺癌のリンパ行性転移，第69回日本外科学会(展示)(44.4)
- 2) 岡田慶夫，池田貞雄，北野司久，伊藤元彦，轟 文夫，折田雄一，佐藤新太郎，松原義人：肺癌手術における化学療法の併用，とくに手術時を中心とした制癌剤の間歇的大量投与について，第69回日本外科学会総会(昭44.4)
- 3) 寺松 孝，山崎 昇，呉 海竜：INH の作用機序に関する知見補遺，第22回実験結核研究会(昭44.6)
- 4) 井上律子，寺松 孝：アナフィラキシーショックに及ぼす全身麻酔の影響について，第16回日本麻酔学会(昭44.6)
- 5) 寺松 孝，山崎 昇，呉 海竜：病理組織学的観点からみた INH の作用機序，第44回日本結核病学会総会(昭44.6)
- 6) 寺松 孝，日下芳郎：気管支瘻をもつ結核性膿胸，第44回日本結核病学会総会要望課題「気管支瘻をもつ結核性膿胸の治療」(昭44.6)
- 7) 永井 彰，安淵義男，寺松 孝：肺結核手術例の術後経過と血清抗体価との比較観察，第44回日本結核病学会総会(昭44.6)
- 8) 岡田慶夫：気管支肺胞系末梢部の超微形態，第9回日本胸部疾患学会総会(展示)(昭44.7)
- 9) 岡田慶夫，池田貞雄：肺癌の免疫学的診断法の開発に関する研究，厚生省がん研究助成金による“がんの特異的な変化を応用する診断法の開発に関する研究” 班会議(昭44.7)
- 10) 岡田慶夫，池田貞雄：転移性肺腫瘍に対する切除療法，第7回日本癌治療学会総会(昭44.9)
- 11) 池田貞雄，岡田慶夫：肺癌における腫瘍抗原の検索，第28回日本癌学会総会(昭44.10)
- 12) 松原義人，池田貞雄，岡田慶夫：マウスのウレタン誘発肺腫瘍の発生に及ぼす免疫学的操作の影響，第28回日本癌学会総会(昭44.10)
- 13) 佐藤新太郎，池田貞雄，岡田慶夫：若年者における原発性肺癌，第10回日本肺癌学会(昭44.10)
- 14) 永井 彰，安淵義男：補体結合反応による肺結核の血清学的鑑別診断，第24回国立病院療養所総合医学会(昭44.10)
- 15) Teramatsu, T.: Autoimmune Disease After Organ Transplantation, Eleventh Congress of Pan-Pacific Surgical Association, Honolulu, Hawaii, U.S.A. (昭44.10)
- 16) 寺松 孝，人見滋樹，船津武志，張 炎森：交叉循環後にみられる Wasting Syndrom の発来原因の再検討，第5回日本移植学会総会(昭44.11)
- 17) 寺松 孝：社会復帰を期待しがたい重症肺結核例における外科的療法，第35回日本結核病学会，第5回日本胸部疾患学会合同近畿地方会(昭44.12)
- 18) 岡田慶夫，池田貞雄：肺の小細胞型未分化癌に対する治療成績，第35回日本結核病学会，第5回日本胸部疾患学会合同近畿地方会(昭44.12)
- 19) 船津武志，人見滋樹：縦隔鏡検査の成績とその適応について，第22回日本胸部外科学会総会(昭44.12)
- 20) 岡田慶夫，池田貞雄：肺癌の免疫学的診断法の開発に関する研究，厚生省がん研究助成金“がんの特異的な変化を応用する診断法の開発に関する研究” 班会議(昭45.1)
- 21) 岡田慶夫，池田貞雄：肺および肺癌組織に比較的特異的に見出される2,3の抗原について，京大胸部研講演会(昭45.1)
- 22) 張炎森，人見滋樹，寺松 孝：交換輸血の免疫学的意義について(第1報)輸血用血液中のリンパ球系細胞の生存期間，第18回日本輸血学会総会(昭45.3)

〔著 書〕

- 1) 長石忠三：西村秀雄他監修 新組織学「気管支・肺」改訂版，医学書院（昭45.3）

〔誌 上 発 表〕

- 1) 岡田慶夫，伊藤元彦：肺癌の細胞診における細胞系分類，京大胸部研紀要，2巻，2号（昭44.3）
- 2) 池田貞雄：肺癌患者の血清中に見出される異常抗原とその免疫化学的解析，臨床免疫，1巻，2号（昭44.4）
- 3) 佐川弥之助：肺動脈硬化，現代医療，1巻，2号（昭44.5）
- 4) 長石忠三：巻頭言「肺機能検査法の現状と将来」呼吸と循環，17巻，7号（昭44.7）
- 5) 岡田慶夫：縦隔鏡検査，臨床科学，5巻，9号（昭44.9）
- 6) 寺松 孝，山崎 昇，呉 海竜：呼吸器科領域におけるオノプローゼ SA の使用経験，新薬と臨床，18巻，10号（昭44.10）
- 7) 長石忠三：国際学会を終えて，京大耳鼻科同窓会誌，10号（昭44.11）
- 8) 岡田慶夫：気管支肺胞末梢部の超微形態，透過型及び走査型電子顕微鏡による健常肺の観察，日本胸部臨床，28巻，12号（昭44.12）
- 9) 寺松 孝，永井 彰，安測義男：肺結核患者の血中抗体と手術予後，臨床免疫，1巻，5号（昭44.12）
- 10) 寺松 孝，池田貞雄，船津武志，伊藤元彦，山本博昭：胸部外科領域におけるベスプリンの使用経験，診療と新薬，6巻，13号（昭44.12）
- 11) Okada, Y.: The Ultrastructure of the Clara Cell in the Bronchiolar Epithelium, 京大胸部研紀要，3巻，1号（昭45.2）
- 12) 伊藤元彦：肺癌手術に対する補助化学療法に関する実験的ならびに臨床的研究〔第1編〕実験的研究〔第2編〕臨床的研究，京大胸部研紀要，3巻，1号（昭45.2）
- 13) 呉 海竜：結核性肺病巣に及ぼす INH の効果とその作用機序，京大胸部研紀要，3巻，1号（昭45.2）
- 14) 佐藤新太郎：肺癌X線像の病理解剖学的解析〔第1編〕切除標本からする肺癌X線像の解析〔第2編〕肺癌X線像の経時的推移に関する病理解剖学的解析，京大胸部研紀要，3巻，1号（昭45.2）
- 15) 寺松 孝：気管支拡張症，どの様に分類されるか，実験治療（昭45.2掲載予定）
- 16) Teramatsu, T.: Autoimmune Disease After Organ Transplantation, World Wide Medical News（昭45近刊）
- 17) 寺松 孝：肺化膿症，日本臨床 28巻3号（昭45.3掲載予定）
- 18) 長石忠三：Prof V. Monaldi の思い出，胸部外科，23巻，3号（昭45年3予定）
- 19) Kitano, M.: Experimental Studies on the Transplantation Immunity of Malignant Tumor, Exp. Medicine and Surgery (Brooklyn, New York) Vol. 27, No.3（1970近刊）

病 理 学 部（主任 教授 安 平 公 夫）

〔学 会 発 表〕

- 1) 高橋権也：結核菌体脂質画分のガスクロマトグラフィーによる分析・（第1報）Wax B について，第44回日本結核病学会総会（1969.6.30），結核 44（5）:56（1969）
- 2) 浜本康平，児島昭徳：類上皮細胞巣形成 1. Wax D 及び sabfraction による病巣形成（第44回日本結核病学会総会，誌上发表），結核 44（5）:60（1969）
- 3) 安平公夫：結核菌体成分による組織反応，第44回日本結核病学会総会特別講演（1969.7.1）
- 4) 高橋権也，安平公夫：マウスに 静脈注射された 20-Methylcholanthren の臓器内分布及び排泄（2）糞便中にあらわれる 20-MC 代謝物質，日本癌学会第28回総会講演（1967.10.15）日本癌学会第28回総会記事 53（1969）

- 5) 安平公夫, 上坂一郎: ノカルディアの病原性, 第13回日本医真菌学会総会 パネルディスカッション “真菌感染をめぐる問題” (1969. 10. 8)
- 6) 安平公夫, 浜本康平: 超遅延型アレルギー 反応(2) 遅延型と超遅延型との分離 (第19回日本アレルギー学会総会講演, 誌上発表), アレルギー 18(臨増):178 (1969)
- 7) 安平公夫: Adjuvant 効果の病理学的背影, 第22回実験結核研究会総会, シンポジウム “Adjuvant 効果” (1959. 6. 29), 同講演内容録: 23 (1959)
- 8) 高橋権也: 結核菌体脂質 のガスクロマトグラフィー (1) アセトン可溶脂肪, 第22回実験結核研究会総会 (1959. 6. 29), 同講演内容録1, (1959)
- 9) 竹田俊男: マウス顎下腺の胸腺およびリン巴組織 に対する抑圧作用 について, 第58回日本病理学会総会 (1969. 4)
- 10) 竹田俊男: マウス顎下腺の胸腺およびリン巴組織抑圧因子に関する実験的研究, 第14回日本唾液腺 シンポジウム (1969. 10)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 安平公夫: 炎症の Meebanism, Kyo No, 6: 3-5 (1968)
- 2) 安平公夫: 結核菌体成分による組織反応, 結核 44: 273-287 (1969)
- 3) Morikawa, S. and Harada, T.: Immunohistochemical localization of catalase in mammalian tissues, J. Histochem, Cytochem., 17 (1): 30-35 (1969)
- 4) Takeda, T., Debusk, J. and Grollman, A.: Physiologic role of reninlike constituent of submaxillary gland of the mouse, Am. J. Physiol., 216 (5): 1194-1198 (1969)
- 5) Kobayashi, H., Yasuhira, K. and Uesaka, I.: Effect of *Esherichia coli* and its endotoxin on the resistance of mice to experimental cryptococcal infection, Jap. J. Microbiol. 13: 223-4 (1969)
- 6) 岩井孝義: 結核の発生, 進展および治癒 (停年退官記念講演 1957. 4. 26), 京大胸部研紀要 3: 16-23 (1969)
- 7) 安平公夫: 結核病巣の転移, 京大胸部研紀要 3: 24-35 (1969)

細胞化学部 (主任 教授 高松 英雄)

〔学 会 発 表〕

- 1) 高松英雄, 三友喜夫, 伊藤 満: 「リボソームにおけるプロテイナーゼ反応」 第10回日本組織細胞化学会
- 2) 高松英雄, 前田美世: 「磷脂質及びスフィンゴ脂質の組織化学」 第10回日本組織細胞化学会
- 3) 大川欣一: アセトン固定パラフィン包埋切片による糸粒体酸化酵素の組織化学的証明手技に関する研究 第10回日本組織細胞化学会
- 4) 大川欣一: 分離肝細胞膜の組織化学的研究 第10回日本組織細胞化学会

〔誌 上 発 表〕

- 1) 大川欣一: ダイコクネズミ白色脂肪組織および褐色脂肪組織に関する比較組織化学的研究 医学のあゆみ, 68巻, 466頁 (昭和44年3月8日)
- 2) 大川欣一, Paolo Pani: コリン欠乏飽料飼育 ダイコクネズミ肝に関する酵素組織化学的研究 ——膜病変に起因する細胞障害に関する分子病理学的考察—— 医学のあゆみ, 69巻, 526頁 (昭和44年6月7日)
- 3) Kin-ichi Ohkawa, Molly T. Vogt, and Emmanuel Farber: Unusually high mitochondrial alpha-glycerophosphate dehydrogenase activity in rat brown adipose tissue. J. Cell Biol., 41: 441 (1969)

- 4) Kei-ichi Hirai: Light microscopic study of the peroxidatic activity of catalase in formaldehyde-fixed rat liver. J. Histochem. Cytochem, 17: 585, 1969
- 5) Akira Mizutani: Scanning electron microscopy of the bronchus and adnexes of rats. Bull. Chest Dis. Res. Inst., Kyoto Univ., 2: 163, 1969
- 6) Akira Mizutani: Intramitochondrial localization of ornithine Carbamoyltransferase activity in the guinea pig liver. J. Electron Microscopy, 18: 17, 1969
- 7) Akira Mizutani: Lead affinity of nuclear pores—possible existence of lipid-like substance. Acta histochem. cytochem, 2: 131, 1969

細菌血清学部 (主任 教授 上坂 一郎)

〔学 会 発 表〕

- 1) 上坂一郎: 真菌の同定第9回日本胸部疾患学会招請講演(昭44.7.4) 於京都
- 2) 上坂一郎: 継代による *Nocardia* の抗酸性の変動, 昭和44年度日本放線菌研究会大会(昭44.9.4) 於札幌
- 3) 上坂一郎: ノカルジアの病原性2 宿主の側から, 第13回日本医真菌学会総会パネルディスカッション「真菌感染をめぐる問題」(昭44.10.8) 於東京
- 4) 上坂一郎: 継代による *Nocardia* 抗酸性の変動日本細菌学会関西支部総会(昭44.10.28) 於津市
- 5) 大岩弘治: 無細胞培養液による鼠レプラ菌の培養。京大胸部研講演会(昭45.1.24)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 上坂一郎: Breaking up of vegetative mycelium of *Nocardia* and *Streptomyces* cultures on agar film. Japan. Journ. Microbiol., 13: 1, 65-77, 1969
- 2) 小林博, 安平公夫, 上坂一郎: Effect of *Escherichia coli* and its endotoxin on the resistance of mice to experimental cryptococcal infection. Japan. Journ. Microbiol., 13: 2, 223-224, 1969
- 3) 上坂一郎: マウス腹腔内に接種された *Nocardia asteroides* の感染経過に及ぼす各種微生物の影響 1. 大腸菌加熱死菌体の影響, 真菌と真菌症, 9: 2, 144-152, 1968
- 4) 上坂一郎: 同上, 2. 大腸菌生菌体の影響, 真菌と真菌症, 9: 3, 177-181, 1968
- 5) 桂 義元: カンジダ症の新しい血清学的診断法, 医学のあゆみ, 72巻, 12号, 632頁, (昭和45年3月21日)

特 別 ゼ ミ ナ ー

第1回「Maerophage とリンパ球, その免疫学的背景」

講師 神戸大学教授 家森 武夫 昭和44年11月22日

第2回「肺の未分化細胞癌の臨床病理学的研究」

講師 大阪府立成人病センター部長 服部 正次 昭和44年11月29日

第3回「大腸菌細胞膜系酵素に対するリポポリサッカライドの役割」

講師 京都大学食糧科学研究所講師 鬼頭 誠 昭和45年2月28日

第4回「物質の細胞内部への取り込みについて——Coated vesicle の形態学的研究」

講師 大阪大学医学部講師 金関 恵 昭和45年3月14日

Bull. Chest Dis. Inst., Kyoto Univ. の投稿規定

- 1) 原稿は概ね投稿順に掲載する。
- 2) 原稿は本文, 写真, 図, 表を含めて刷上り英文の場合は12頁以内, 和文の場合は8頁以内とする。同一主題の論文の同時掲載は3篇を限度とする。以上を超過した場合は編集委員会において協議の上決定する。但し, この場合は超過料を徴収する。

参考: 英文の場合A4版ダブルスペース, タイプ印刷3枚で刷上り約2頁, 和文の場合は1,600字で刷上り約1頁

- 3) 英文は, ダブルスペース, タイプ印刷, 和文はひらがな交り, 横書きとし, 字画及び句読点を明瞭に記すこと。
- 4) 外国人名は外国綴のままとし, 頭文字は大文字で, その他は小文字でタイプ又は印刷体で書くこと。
- 5) 度量衡の書き方は, m, cm, l, ml, g, mg等の記号を用い, 記号の後に省略符号・を附さないこと。
- 6) 本文原稿に写真, 図, 表等の挿入場所を明示のこと。
- 7) 綜説及び原著に引用された文献は, 引用された順番に番号を附して末尾に一括して記載すること。尚, 雑誌の場合は著者名, 標題, 誌名(一般に通用する略名でよい), 巻, 頁, 年(西歴)の順に, 著書の場合は著者名, 書名, 発行所, 発行年(西歴)頁の順に記載のこと。

参考例:

- 1) Root, R.K. and Wolff, S.M., Pathogenic

mechanism in experimental immune fever, *J. Exp. Med.*, 128: 309~323, 1968.

- 2) 渡辺喜久雄: クリオグロブリンの免疫学的研究, *アレルギー*, 11: 18~40, 1962.
- 3) Schwartz, R. S.: Immunosuppressive therapy. In *Immunopathology*, Ed. by Miescher, P.A. and Grabar, P., Schwabe and Co., Basel, 1967, pp. 360.
- 4) 佐竹一夫: クロマトグラフィ, 赤堀四郎 篇酵素研究法1, 朝倉書店, 東京, 1957, pp. 365.

尚連名の場合は2名迄は参考例1)に従うが, 3名以上の場合は最初の著者名のみを記し, その他は英文の場合は“et al”(イタリック), 和文の場合は“他”を用いること。

- 8) 写真, 図, 表は英文の場合は, 写真及び図は凡て Figure を用い, 表は Table を用いる。和文の場合は, 写真(又は図), 図, 表とする。

参考例: Figure 3 or Fig. 3

写真3 (又は図3), 表5

- 9) 和文原稿の場合は英文抄録(A4版ダブルスペース, タイプ印刷1頁程度)を添付のこと。
- 10) ランニングヘッド(英文の場合50レタース以内, 和文の場合30字以内)を附すること。
- 11) 別刷に要する費用は凡て個人負担とする。